

なかま新聞

なかま新聞
編集 新聞部員
姫路市北条宮町
215番地
TEL.079-287-1025



新たな出発 あけびの輪/難病医療法

「なかま新聞」への投稿が現在の二ページを超えることにもつながると思うからです。実際にそうなることを待ち望む次第です。

ややもすると引き込み勝ちになる利用者の日々の生活を、この新たな施設では、このところの重点を置いたリハビリ即ち日頃の生活の内容を回復、向上させるべく、積極的なサービスが提供されると聞いております。

一昨十三日、NPO法人あけびの三番目の通所介護施設「あけびの輪」がスタートしました。

このような意味での仲間が増えることは、大いに歓迎されることです。それは我が「なかま新聞」への投稿が現在の二ページを超えることにもつながると思うからです。実際にそうなることを待ち望む次第です。

この法律は、昨年四月に施行された『障害者総合支援法』とは異なっており、現在、私達が助成を受けている『特定疾患治療研究事業(略して治療研究事業)』をベースにした難病にかかると医療費の助成制度の、極めて身近な関わりのある問題の法制化なのです。

「特定疾患治療研究事業(略して治療研究事業)」をベースにした難病にかかると医療費の助成制度の、極めて身近な関わりのある問題の法制化なのです。

さて、この時期の気になるところ、去る五月二十三日の参議院本会議で可決成立をみた『難病の患者に対する医療等に関する法律(略して、難病医療法)』についてではないでしょうか。



世界の梅公園にて 岩村和雄

即ち、この治療研究事業は、一九七二(昭和四十七)年から、当時の厚生省(現在の厚生労働省)の予算で始められた単独事業で、従って、何時打ち切りになるか知れないという、不安定な存在だったので、それが、このたび一つの法律として、国の事業になったわけで、その意味において安定した制度となったと云えます。

ただ、無条件に喜ぶというわけにはいかないようで、現在、一千否それ以上もの難病があると云われていますが、現在の医療費助成の対象である五九疾患から約三〇〇疾患に拡げられる程度だと報じられています。

それでは、なお多くの方達が、対象からはずれるということになってしまします。その検討は、この七月から開かれる第三者委員会において、「指定難病」として、漸次決められるとのことですので、その結果を待ちたいものです。

菊池 武明

この法律の施行日は来年一月一日で直接私達に関わるようになります。

自分の体でありながら、思い通りに動かない、ものが云いたくても言葉が出ない。排尿の回数が多くて四時間程度しか眠れない。排便にしても、週に一度は浣腸、いずれも薬を飲んでいますが、効き目がない。食事にしても飲み込みが悪くて時間がかかる。

山を愛する仲間の一人として、現在ガンと闘っている田部井淳子さんの、「病気になっても病人になるな」という言葉を聞いて、「目からウロコ」だった。

山を愛する仲間の一人として、現在ガンと闘っている田部井淳子さんの、「病気になっても病人になるな」という言葉を聞いて、「目からウロコ」だった。



仲間の声

私の少年時代 吉原 昭一

夏が過ぎ風あざみ、誰のあこがれさまよう、青空に残された私の心は夏模様。ご存知、井上陽水の“少年時代”の一節です。

さて、私の少年時代も夏の思い出しか浮かびません。サトウキビ畑の水遣りとイチゴ狩り、葉タバコの収穫、牛の飼料の草刈りなどの農作業で汗を流し、溜め池や海で六尺禪で集落の餓鬼どもと蛙のように泳ぎまわり、真っ黒な身体になる。そして、更なる楽しみが夏祭り、あの屋台のアセチレンガスの臭いが、今でも郷愁をそそります。

我々の少年時代は身体の五感を一杯働かせて生きていたように思えます。現代の少年達がどうゆう思い出を作れるのか、グローバル化で物と情報があふれる今、豊かさとは何か？を考えさせられます。



絵：橋本幸子

橋本 幸子

近くに二人の孫がいま
す。中1と小2の男の子
です。二人とも個性豊か
ですが、性格はまっ
たく違います。兄
は、覚えることが
好きで、勉強もマラソン
などのしんどいことも苦
にせず、楽しんでい
るようです。ただ、頼んだことに「あ、
忘れた」と平気です。能天気なこ
ろがある子ですが、癒されるのです。
弟は元気がっぱいの運動大好き少
年で、「おばあちゃん、こんなこと
出来る？」と飛び跳ねて、挑戦する
のですが、私にはとんでもないこと
で、勿論、完敗です。車椅子を押し
てくれますが、ちょっとスピードの
出し過ぎで、いい遊び道具にされて
います。でも、几帳面で、頼みごと
にはきちん覚えて呉れる、愛嬌いっ
ぱいの甘えん坊です。



こんな二人が、我が家に来
ると、盆と正月が一度に来た
ような騒がしさで、笑ったり、叱つ
たりとエネルギーを遣いますが、お
蔭で、リハビリに精だし、頑張りね
ばと思つのです。
二人の孫の成長が、私の生きがい
なのです。

私の孫自慢



仲良し兄弟

寺下 典子

先月から「あけび」の仲間に加え
てもらいました。

先日、息子が車で通りすがりのこ
と、自転車に乗ったおばあちゃんが
こけたのを見かけて、車を止めて
「おばあちゃん、大丈夫？」と声を
掛けたところ、胸を押さえて、うず
くまっていたので、近くの病院へ連
れて行き、そのあと仕事へと走った
とのことでした。「おばあちゃん、
どうだったか」と、案じる一方で、
見て見ぬふりして通り過ぎる人達に
憤慨したそうです。

私もこれから世話になる身です。
長く付き合っていかなければならな
い病氣、パーキンソン病と診断され、
気分のすっきりしない気持ちでした
が、「あけび」のスタッフのみなさん
の明るい笑顔のなか、利用者さん
達の交流の場で、前に進んでいかね
ば、と思えます。

あけびの輪 施設長

木村 健一郎

先日、パーキンソン病のリハビリ
講習のため新潟に行つて来ました。
内容は大変シンプルで、とにかく体
を大きく動かす、その一点に要約さ
れていました。シンプルですがそれ
がとても重要な意味を持ち、正しく
行うことで大きな効果をもたらすと
いうことを学びました。

あけびの輪を始めるにあたっての
コンセプト（発想）も非常に単純明
快です。あけびの利用者さん全てに
対しての願いとも言えることですが、
「自分の生活リズムは自分で決めて
過ごすことが出来る」ようにいつま
でもあって欲しいと思います。すが
りたい、〇〇でありたい、そんな意
欲や目標を大切に持ち続けてもらい
ながら、そのためにリハビリや娯楽
も含めて「あけび」を有効に活用し
てもらえたら、と思えます。

清清し人なり 脚や肩

膝に黙々と

唯温熱療法

南光 桂子